

えせ同和行為とは



「えせ同和行為」とは、同和の名を騙り、同和問題の解決を口実にして相手方を威圧・脅迫しながら、不当な利益や義務のないことを要求する行為で、その目的は最終的には金銭を得ることです。それには「同和は怖い、関わりたくない」といった同和問題に対する誤った意識が、巧みに利用されています。また、同和問題に関する知識不足につけ込み、言いがかりを付けられることもあり、普段から同和問題に対する正しい理解を深めることが大切です。

最近では、暴力団等の反社会的勢力が、同和の名を騙るなど社会運動を仮装、標ぼうし、企業や行政などに対し、恐喝、強要、利益受供与等により不法な利益を獲得しようとしています。

これに対し、政府は、「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」を犯罪対策閣僚会議幹事会申合せとして平成19年6月19日に公表しました（4頁参照）。このような状況の中、私たちは、反社会的勢力の行為の一つとして「えせ同和行為」を排除していく必要があります。

※ 反社会的勢力とは、暴力、威力と詐欺的手法を駆使して経済的利益を追求する集団又は個人。「反社会的勢力」をとらえる際には、暴力団、暴力団関係企業、総会屋、社会運動標ぼうゴロ、政治活動標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等といった属性要件に着目するとともに、暴力的な要求行為、法的な責任を超えた不当な要求要件にも着目する。

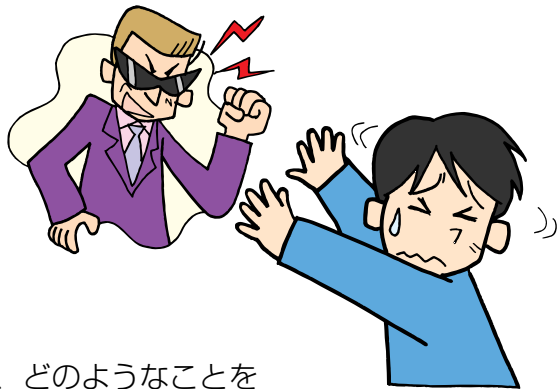


○怖いと思うことが

相手が「同和〇〇」と名乗り、そのことで身構えたり、恐怖心を抱く必要はありません。相手からすれば、ただ名乗っただけですので、それだけで身構えたり、怖がるまさか相手の思う壺で、このことをえせ同和行為者は巧みに利用しています。

相手が、どのような組織に所属していても、どのようなことを理由にしても、「正しいこと」は「正しい」、「不当なこと」は「不当」と判断すれば良いのです。応ずることのできない要求を断ることは当然のことであって、特別視する必要もなければ、怖がる必要もありません。

えせ同和行為が、同和問題は「怖い、関わり合いたくない」といった誤った意識を再生産しているとも言えます。



○なぜ、えせ同和行為は横行するのか

横行する理由として、えせ同和行為を受けた人が同和問題に関する正しい理解を欠いていたり、同和問題は怖い問題であるという誤った意識を持っていたり、厄介な問題を安易に金銭で片づけようとする事なかれ主義の体質が関係しているものと思われます。

また、えせ同和行為者は暴力団と密接な関係があると言われており、表社会での活動を多様化する暴力団が、資金獲得のために前述の同和問題に対する誤った意識や体質に乗じて「えせ同和行為」として活動することが多いと考えられます。

※ 警察庁が平成19年2月に行った「建設業における暴力団等の資金獲得活動の実態に関するアンケート調査（暴力団対策法に定める不当要求防止責任者を選任した建設業者3,000社が対象）」によると、**不当要求行為者の70%が「同和等の社会運動団体に所属すると名乗った」と回答しています**（20頁参照）。

○同和問題を正しく理解してください

同和問題は、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分差別に基づく、日本固有の人権問題であり、今もなお、偏見や差別により就職や結婚などで解決されていない問題が残されています。

同和問題に対する誤解や偏見が、世代を超えて継承されており、昔からの迷信や非合理的な考えを見直し、差別のない社会を作る必要があります。そのためにも、「えせ同和行為」は絶対に許してはいけません。

なお、同和問題の解決のために真摯に活動している人たちもいます。この人たちとえせ同和を行う者と混同しないでください。排除すべきは「同和」の名のもとで行われる「えせ同和行為」です。

